

553.32+553.74 : 550.8(521.76)

奈良県吉野郡川上村内マンガン鉱床および温泉調査報告

昭和28年9月4日から8日間にわたり、奈良県吉野郡川上村内のマンガン鉱床および温泉を調査した。

地質は古生代および中生代に属すると推定される地層およびこれを貫ぬく石英斑岩からなる。局部的に断層および褶曲の発達するところもあるが、全般的には安定した単斜構造を示す。

マンガン鉱床は角岩層中に胚胎し、奥入之波釜の公谷

および黒倉又谷、入之波新谷附近など露出するが、いずれも規模小さく、移行価値に乏しい。鉱石は主として炭酸マンガン鉱、二酸化マンガン鉱、バラ輝石等からなる。

湯谷温泉はその泉温(最高)、32.8°Cと測温される無色透明の硫化水素臭を有する温泉である。この温泉は附近の温泉に較べ、その泉況やすぐれ、今後の調査にまつところ大である。

(調査：武市 敏雄)

山口県黄波戸砂鉄鉱床調査報告

昭和28年11月6日から5日間、山口県大津郡日置村黄波戸の砂鉄鉱床を調査した。砂鉄鉱床は黄波戸港防波堤附近に賦存し、山陰本線黄波戸駅より北方、1.1kmの所に位する。砂鉄層は第三系の黄波戸累層に属する砂岩層中に胚胎する。かつて波高鉱山と称し、黄波戸東端の防波堤附近の2旧坑および2露天掘跡において砂鉄層が採掘された。砂鉄層の厚さは一般に10~50cmで、比

較的細粒の高品位部と粗粒低品位部との互層からなり、厚層部では厚さ1.5~2.0mに達する。旧坑および露天掘跡附近の鉱況から、走向延長70mに達する富鉄部が確認される。砂鉄層を構成するおもな砂粒はほとんど磨耗を受けておらず、粒度最大径2mmに達する。上鉱の化学分析結果は Total Fe 40~48%, TiO_2 7.2~9.5% である。

(調査：小 松 彊)

553.31 : 553.494 : 550.85(523.2)

香川県瀬戸内海地区砂鉄調査報告

本調査は昭和30年9月下旬、香川県坂出市の岩黒島および三豊郡の北西海上の栗島の砂鉄鉱床の概査で、未利用鉄資源開発調査分科会の調査計画の一環として実施された。香川大学教授田上政敏、四国通商産業局技官数馬千里・水原義美および柴野昭博、香川県庁技師伏見岩太郎の諸氏が本調査に参加している。

岩黒島は岡山県児島市下津井港から4kmの海上に位する。本島の北半部数箇所において砂鉄層が認められた。砂鉄層は幅20~30m、延長50~180mの海岸の砂層中に胚胎する。砂層の厚さは0.7~1.50mである。砂鉄層の厚さは0.02~0.30mで、厚さ0.01~0.03mの砂鉄薄層からなり、連続性が乏しい。砂鉄粒は概して48~60

meshで、多量の角閃石・輝石等を含み、鉱石鉱物は主としてチタン鉄鉱である。砂鉄層の品位はFe 0.07~0.14%, Ti 0.02~0.27%で、きわめて低い。

栗島は香川県詫間町北方の海上に位する。本島北方に突出する阿島山の海岸に砂鉄層が3カ所認められる。幅10~40m、延長50~450m規模の海岸に砂鉄層が胚胎する。砂鉄層中最も優勢なものでも、厚さ0.20~0.30mの砂層中に胚胎し、厚さ0.01~0.06mの砂鉄薄層からなるに過ぎない。砂鉄の性状は岩黒島のものに似ている。砂鉄層の品位はFe 0.06~0.64%, Ti 0.03~0.29%で、きわめて低い。

(調査：脇田咸次郎)